

## 銚子労基署たより

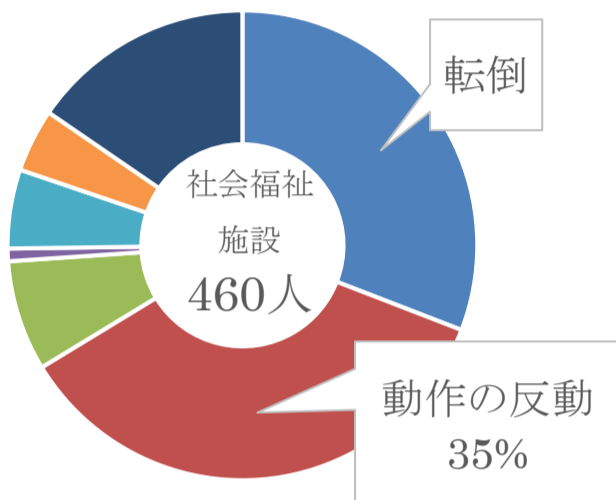
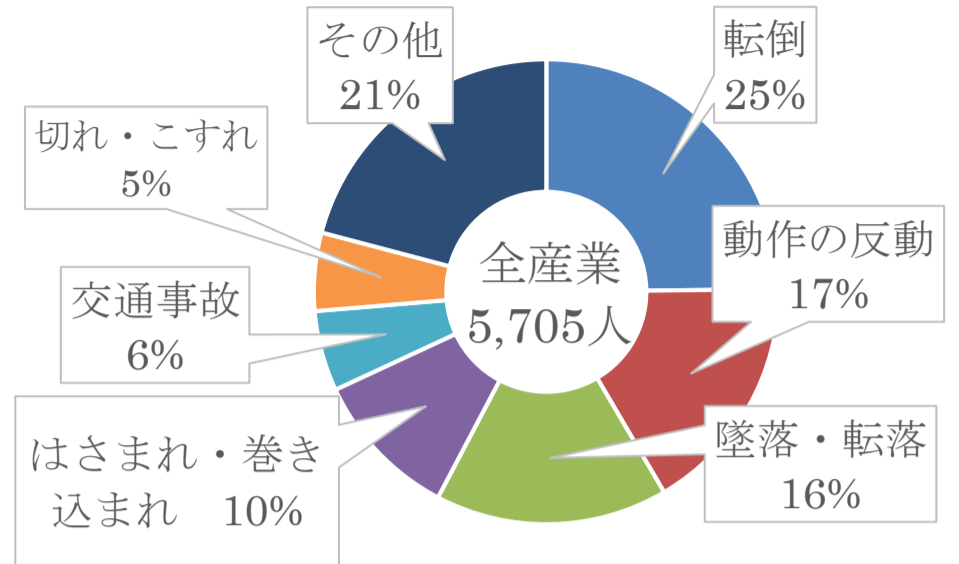
令和2年12月11日発行  
銚子労働基準監督署

### 転倒災害・腰痛症が多発しています。

#### 【労働災害発生状況】

千葉県内で令和元年に発生した休業4日以上の労働災害は5,705件であり、**4年連続で増加**しています。

事故の型別では、転倒災害が25%、動作の反動（腰痛症等）が17%と合計で全体の42%を占めています。



業種で見ると、**社会福祉施設**では460件中、転倒災害が31%、動作の反動が35%と全体の3分の2を占めており、転倒災害及び腰痛症のリスクが非常に高い業種であることが明らかです。社会福祉施設における労働災害を減らすためには転倒及び腰痛症の防止対策が不可欠です。

### 労働災害増加の原因は??

労働災害が増加している原因の1つは労働者の高齢化であり、身体機能の低下等から労働災害の発生率が高くなり、また休業期間が長期化しやすくなります。

一方で、内閣府のまとめた高齢社会白書によると、我が国の高齢化率（総人口に対する65歳以上の占める割合）は平成30年で28.1%であったが、今後高齢化率は上昇を続け令和18年には33.3%を超え、令和47年には38.4%に至る可能性があると言われています。

さらに、銚子市の高齢化率は平成27年ですでに33.7%に至っており、令和27年には49.5%に達すると試算されています。

今後加速する労働者不足に対応するためにも、労働者が高齢になっても安全、健康に働きやすい環境を整備することが非常に重要であるといえます。

### 社会福祉施設における労働災害防止対策

今回、社会福祉施設において労働災害を防止するための三本柱として、

◇STOP! 転倒災害プロジェクト

◇職場における腰痛予防対策指針

◇エイジフレンドリーガイドライン（高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン）の概要について説明いたします。

#### ◇STOP 転倒災害防止対策

労働災害のうち最も多く発生している転倒災害の撲滅を目的とし、推進しています。転倒災害は単なる労働者のミスと考えられがちであり、対策が後回しになっていることが多々あります。確かに、転倒災害を100%防ぐことは不可能ですが、整理整頓をはじめ、段差の表示、転倒危険マップの作成により危険を「見える化」することで労働者に転倒リスクを意識させるだけで転倒リスクを数%低下させることが可能です。

**ポイント!!** 「STOP! 転倒災害プロジェクト」で検索し、資料にある「チェックリスト」を活用して総点検していただき、不十分な項目について改善を図りましょう。

## ◇職場における腰痛予防対策指針

腰痛症についても、個人の資質の問題とされがちです。法令上の取り扱いを紹介いたしますと、労働基準法第 62 条では重量物の取り扱いを有害な業務とし、年少者の取り扱う最低基準重量として右表のとおり示されています。

年齢及び性		重量 (kg)	
		断続作業	継続作業
16 歳未満	女	12	8
	男	15	10
16 歳以上 18 歳未満	女	25	15
	男	30	20

また、「職場における腰痛予防対策指針」では、人力によってのみ作業を行う場合の重量は、**男性は体重のおおむね 40%、女性は体重のおおむね 24%**程度とするよう定めています。

**ポイント!!** 負担を軽減する新たな機器や福祉道具の開発も進んでいるため、情報収集し積極的に採用してください。人力に頼らざるを得ない作業については、適正な作業人数及び作業量について検討し、定期的に作業姿勢や動作の教育等を実施しましょう。

## ◇エイジフレンドリーガイドライン

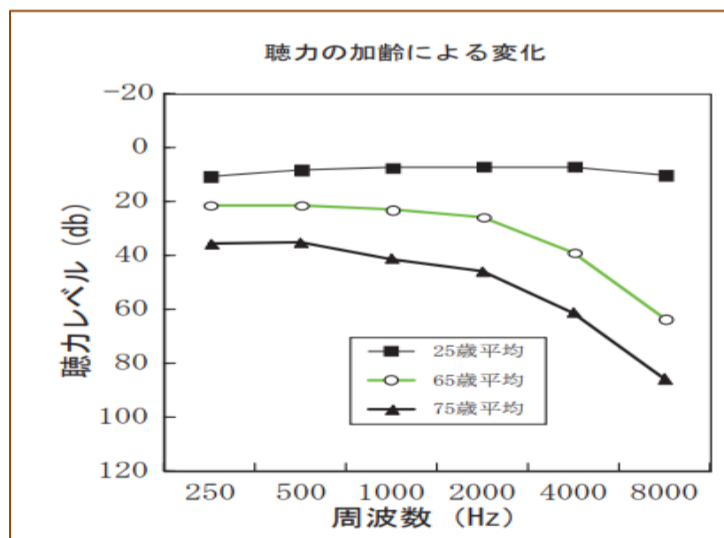
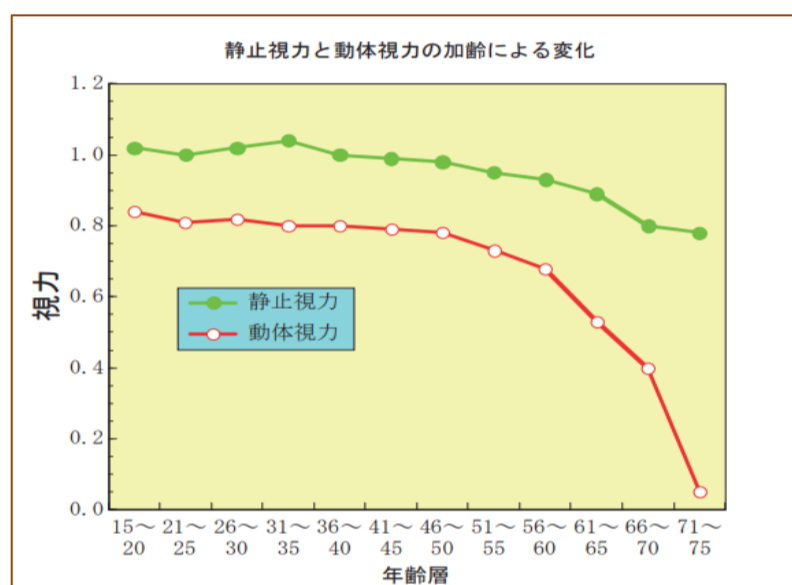
高齢者の特性に配慮したエイジフレンドリーな職場を目指し、厚生労働省が令和 2 年 3 月に策定したガイドラインです。

配慮すべき高齢者の特性として、以下のものが挙げられます。

### ■視力

20 歳を基準とすると、**50 歳代では約 1.4 倍、60 歳代では約 2.5 倍**の明るさが必要。加齢によりグレア感度（まぶしさによる不快感）も上昇するので、明るすぎるのもよくない。

また、静止視力の低下は緩やかであるのに比べ、動体視力は 50 歳頃から急激に悪化する。



### ■聴力

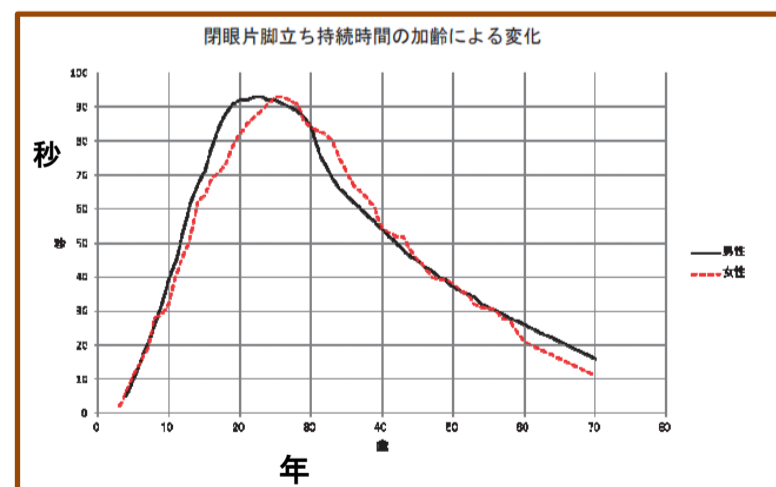
45 歳あたりから低下が目立ち始め、**70 歳代では、20 歳代と比べて 40 dB 以上大きな音でないと聞こえない**とされている。加齢とともに、ひずんだ音や、雑音にうずもれた音の聞き分けが困難になり、特に高い音が聞えづらい。

### ■平衡感覚

男性は 20 歳、女性は 26 歳あたりをピークに加齢に伴い減少。

### ■回復能力

夜勤後の疲労回復能力は、20~24 歳を 100 とした場合、**55~59 歳では 27 まで低下**するといわれている。



**ポイント!!** 「エイジアクション 100 チェックリスト」で検索し、資料にあるチェックリストを活用して現状を把握することから始めてみましょう

また、身体能力の低下等は個人差が大きいことから、個々の労働者が自分の健康状態に合わせた勤務形態を選択可能とすること検討し、労働者が健康に長期就業できる職場を目指しましょう。